

- [2009/11/06]
- 72) 池田和隆, 萩野洋子, 高松幸雄, 他. AD/HD動物モデルとしてのドーパミントランスポーター欠損マウスにおける脳内モノアミン系の異常. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 19指-8 神経学的基盤に基づく発達障害の診断・治療ガイドライン策定に関する総合的研究班(稲垣班)平成21年度 第2回班会議, 小平 [2009/11/29]
- 73) 堀達, 池田和隆, 大谷保和, 他. アルコール依存症の薬物療法に関する研究—Relapse Risk Indexを用いた薬効評価と治療候補薬の検討—. 厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費 アルコール依存症の病態と治療法の開発に関する研究 (19指-3) 平成21年度研究成果報告会, 東京 [2009/12/02]
- 74) 池田和隆, 西澤大輔. 喫煙および肺がんと関連する遺伝子多型の網羅的探索とオピオイド系遺伝子の重点解析. 特定研究「遺伝子多型と喫煙—肺がんを中心として」検討会, 東京 [2009/12/08]
- 75) 服部政治. がん性疼痛管理におけるモルヒネ注射薬の使用法—PCAの有効利用と硬膜外モルヒネ鎮痛法—. 第43回日本ペインクリニック学会. 名古屋, 2009.7.16~18
- 76) Sumitani M, Uematsu H, Yamada Y, et al. One intact hand is the window on the other phantom hand. American Academy of Pain Medicine. Honolulu, Jan. 2009.1.28
- 77) Sumitani M, Misaki M, Yamada Y, et al. Dissociation between space and number representations in patients with pathologic pain (CRPS). World Institute of Pain. New York, 2009.3.14
- 78) Sumitani M, Yozu A, Yamada Y, et al. Using the intact hand for objective assessment of phantom hand perception. International Association for Study of Pain, Neuropathic Pain Special Interest Group. Lisbon, 2009.9.10
- 79) 住谷昌彦, 宮内哲, 山田芳嗣. 難治性疼痛に対する神経リハビリテーション. ハンドセラピー学会. 東京, 2009.4月
- 80) 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. 脊髄刺激療法の効果発現における後索深部知覚伝達経路の関与 (single-case study). 第31回日本疼痛学会. 名古屋, 2009.7.16~18
- 81) 住谷昌彦, 宮内哲, 山田芳嗣. CRPSに対する神経リハビリテーションとそのメカニズム. 第43回日本ペインクリニック学会. 名古屋, 2009.7.16~18
- 82) 住谷昌彦, 宮内哲, 山田芳嗣. CRPSに対する神経リハビリテーションの可能性. 日本ペインクリニック学会北関東地方会群馬支部会. 前橋, 2009.11月
- 83) 住谷昌彦, 宮内哲, 山田芳嗣. complex regional pain syndrome の中枢神経機能異常と新規治療. 日本臨床神経生理学学会.北九州市, 2009.11月
- 84) 住谷昌彦. 幻肢痛と大脳運動野. 第56回日本麻酔科学会. 神戸, 2009.8.16~18
- (2010)
- 01) Obuchi M, Sumitani M, Hirai A, Shin M, Sekiyama H, Yamada Y. Spinal cord stimulation ameliorates neuropathic pain-related sleep disorders. IARS (International Anesthesia Research Society) Annual Meeting, Honolulu, 2010.3
- 02) Hirai A, Sumitani M, Yamada Y, et al. Similarities of neuropathic pain descriptions in the McGill pain questionnaire between patients with 'classic' neuropathic pain and those with radiculopathy. IARS (International Anesthesia Research Society) Annual Meeting, Honolulu, 2010.3
- 03) 平井絢子, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. McGill Pain Questionnaireによる神経障害性疼痛の比較-古典的neuropathic painとradiculopathyはよく似た性質の疼痛を訴える. 第57回日本麻酔科学会. 福岡, 2010.6
- 04) 鈴木彩, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. McGill Pain Questionnaire (MPQ)での疼痛性質評価を用いた神経障害性疼痛と侵害受容性疼痛の分類法の検討. 第30回日本臨床麻酔学会. 徳島, 2010.11
- 05) 小暮孝道, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. 潰瘍性疼痛には神経障害性疼痛の要素が含まれている—McGill Pain Questionnaire(MPQ)での疼痛性質評価からの要素分析. 第30回日本臨床麻酔学会. 徳島, 2010.11
- 06) 小川節郎. 神経障害性疼痛の診断と治療. 第30回日本臨床麻酔学会. 徳島, 2010.11
- 07) 有田英子, 花岡一雄, 小川節郎, 他. 新しい痛みの強さの測定法を用いた疼痛治療における痛みの変化の検討. 第44回日本ペインクリニック学会. 京都, 2010.7
- 08) Nakae A, Mashimo T, et al. Serotonin 2C receptor RNA editing and alternative splicing in the rat

- oro-facial neuropathic pain model. NeuPSIG (Neuropathic Pain Congress) 2010
- 09) Nakae A, Mashimo T, et al. Pain sensitivity changes in patients with schizophrenia. 40th Neuroscience 2010
  - 10) 眞下 節. 臨床からみたCRPSの新しい展開. 第32回日本疼痛学会 2010
  - 11) 植松弘進、眞下 節、他5名. 脳機能画像における痛覚認知機構の解析 -筋由来の痛みと皮膚由来の痛みの比較検討-. 第32回日本疼痛学会2010
  - 12) 植松弘進、眞下 節、他5名. 錯視を用いた疼痛に対する注意の定量化(第1報: 基本的発見). 第32回日本疼痛学会. 京都, 2010.7
  - 13) 中江 文、眞下 節、他5名. 眼窩下神経絞扼モデルにおけるセロトニン2C受容体の関与. 第32回日本疼痛学会. 京都, 2010.7
  - 14) 安部剛志、眞下 節、他7名. 三叉神経痛に対する漢方薬の治療効果について. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 15) 松田陽一、眞下 節、他8名. 高用量オピオイド投与または多剤併用の薬物治療を必要とした難治性がん性疼痛患者の特徴. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 16) 井上隆弥、眞下 節、他6名. 痛みの漢方治療. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 17) 中江 文、眞下 節、他6名. HIV感染により進行性多巣性白質脳症による痛みをきたした一例. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 18) 花田留美、眞下 節、他7名. ハンセン病による神経障害性疼痛に対してオピオイドが有効であった1症例. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 19) 阪上 学、眞下 節、他7名. 経過観察中に過剰な訴えが詐病によるものと判明したCRPSの一症例. 日本ペインクリニック学会第44回大会. 京都, 2010.7
  - 20) 住谷昌彦、眞下 節、他2名. 大阪大学医学部付属病院におけるヒト型ロボットを陪席させた難治性疼痛患者の診療経験. 第30回日本臨床麻酔学会. 徳島, 2010.11
  - 21) 石田葉子、眞下 節、他8名. 脊髄坐減モデルにおけるセロトニン2C受容体選択的スプライシングの関与. 第33回日本分子生物学会 2010
  - 22) 深澤圭太、細川豊史. エコーガイド下仙腸関節ブロックの有用性. 第39回日本慢性疼痛学会, 東京, 2010.2.26
  - 23) 上野博司、細川豊史. 急性脳血管障害との鑑別を要した特発性脳脊髄液減少症の1症例. 日本慢性疼痛学会, 東京, 2010.2.26
  - 24) 植田弘師. 慢性疼痛の初発原因分子としてのリゾホスファチジン酸-フィードフォワード性 de novo LPA合成. 第52回脂質生化学会, 2010年6月、群馬県渋川市
  - 25) 植田弘師. 神経障害性疼痛における de novo リゾホスファチジン酸の生合成を介するフィードフォワード機構. 第32回日本疼痛学会, 2010年7月、京都
  - 26) 植田弘師. Epigenetic control of opioid receptor gene expression in neuropathic pain model, INRC2010, 2010年7月、スウェーデン
  - 27) 植田弘師. 神経因性疼痛におけるオピオイド受容体遺伝子のエピジェネティクス転写制御機構の解明. 第31回鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会, 2010年8月、名古屋
  - 28) 三浦 裕、西建也、植田弘師、他. 特定脳領域へのMOP遺伝子レスキューマウスにおけるモルヒネ鎮痛耐性とアンチオピオイド性グルタミン酸-NMDA受容体仮説の証明. 第31回鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会, 2010年8月、名古屋
  - 29) 西 建也、三浦裕、植田弘師、他. モルヒネ鎮痛における疼痛モダリティー特異的な脳領域の同定. 第31回鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会, 2010年8月、名古屋
  - 30) 西依倫子、植田弘師. INTERMITTENT COLD STRESS-INDUCED EXPERIMENTAL FIBROMYALGIA MODEL IN MICE - PHARMACOLOGY AND NEUROBIOLOGY, 2010年8月、IASP The 13th World Congress on Pain、モントリオール
  - 31) 植田弘師. Rescue of specific promotor-regulated mu-opioid and nmda receptor gene into pag of k/o mice - pain species-specific brain loci for morphine analgesia and tolerance, 2010年8月, IASP The 13th World Congress on Pain、モントリオール
  - 32) 西依倫子、小川智世、荒木康平、植田弘師. PILOCARPINE SUPPRESSES HYPERALGESIA INDUCED BY INTERMITTENT COLD STRESS AS AN EXPERIMENTAL FIBROMYALGIA MODEL IN MICE, 2010年9月、IASP The 13th World Congress on Pain、モントリオール
  - 33) 内田仁司、植田弘師. 難治性神経因性疼痛におけ

- る疼痛関連遺伝子群のサイレンシング制御機構、Neuro2010、2010年9月、神戸
- 34) 植田弘師. リゾホスファチジン酸を介した末梢性および中枢性の慢性痛のフィードフォワード性増幅機構、Neuro2010、2010年9月、神戸
- 35) 植田弘師. モルヒネによる痒み誘発と末梢性鎮痛効果に関する最近の話題、第20回国際痒みシンポジウム、2010年10月、東京
- 36) 内田仁司、植田弘師. Epigenetic gene silencing via NRSF in chronic neuropathic pain、Neuroscience 2010、2010年11月、サンディエゴ
- 37) 永井潤、馬琳、植田弘師. Lysophosphatidic acid and Neuropathic pain - involvement of microglia activation、Neuroscience 2010、2010年11月、サンディエゴ
- 38) 植田弘師、永井潤、馬琳、謝維嬌. Initiating mechanisms for neuropathic pain through lysophosphatidic acid -feed-forward biosynthesis and demyelination、第20回日韓薬理学合同セミナー、2010年11月、鹿児島
- 39) 馬琳、植田弘師. 神経障害性神経因性疼痛の発症機序の解明：リゾホスファチジン酸産生を介する脊髄ミクログリアの活性化、第63回西南部会、2010年11月、鹿児島
- 40) 内田仁司、荒木康平、植田弘師. 慢性疼痛におけるエピジェネティクス：疼痛関連遺伝子群のサイレンシング制御機構の解明、平成22年度生理学研究所研究会、2010年12月、名古屋
- 41) 三浦裕、西建也、植田弘師、他. モルヒネ鎮痛耐性を制御するアンチオピオイド機構の解明、平成22年度生理学研究所研究会、2010年12月、名古屋
- 42) 永井潤、馬琳、植田弘師. リゾホスファチジン酸誘発性神経因性疼痛における脊髄ミクログリアの機能的関与、平成22年度生理学研究所研究会、2010年12月、名古屋
- 43) 植田弘師. 末梢神経性の神経障害性疼痛発生機序、平成22年度生理学研究所研究会、2010年12月、名古屋
- 44) 西建也、三浦裕、植田弘師、他. オピオイド受容体欠損マウスへの脳領域特異的遺伝子レスキューと疼痛モダリティーとの関連、第27回日本薬学会九州支部大会、2010年12月、長崎
- 45) 三浦裕、西建也、植田弘師、他. 恒常的活性化オピオイド受容体レスキューによる鎮痛耐性とアンチオピオイド性グルタミン酸-NMDA受容体仮説、第27回日本薬学会九州支部大会、2010年12月、長崎
- 46) 荒木康平、内田仁司、植田弘師. 慢性疼痛とエピジェノミクス創薬：新しい分子標的としてのヒストン脱アセチル化酵素、第27回日本薬学会九州支部大会、2010年12月、長崎
- 47) 馬琳、植田弘師. 神経障害性神経因性疼痛の発症機序の解明：リゾホスファチジン酸産生を介する脊髄ミクログリアの活性化、第27回日本薬学会九州支部大会、2010年12月、長崎
- 48) 迎武紘、平佳代、植田弘師、他. 線維筋痛症と種々の抗アロディニア薬：臨床治療効果との比較、第27回日本薬学会九州支部大会、2010年12月、長崎
- 49) Ogai Y, Hori T, Ikeda K, et al. Influences of GIRK channel inhibition on alcohol abstinence and relapse risk in Japanese alcohol-dependent outpatients. CINP 2010, Hong kong [2010/06/07].
- 50) Han W, Takamatsu Y, Ikeda K, et al. Reduced locomotor sensitization induced by methamphetamine and altered gene expressions in ICER over-expressing mice. CINP 2010, Hong kong [2010/06/07].
- 51) Kasai S, Shigeta Y, Ikeda K, et al. Associations between nucleotide sequence differences in the Oprm1 gene and sensitivity to morphine in wild-derived inbred mouse strains. CINP 2010, Hong kong [2010/06/07].
- 52) Ikeda K, Nishizawa D, Kasai S, Fukuda K, Hayashida M. Polymorphisms of the genes encoding the mu-opioid receptor and GIRK2 (KCNJ6) are associated with postoperative opioid requirements. CINP 2010, Hong kong [2010/06/08].
- 53) Nishizawa D, Nagashima M, Ikeda K, et al. Association between GIRK3 gene polymorphisms and postoperative analgesic requirements after major abdominal surgery. The American Society of Human Genetics 60th Annual Meeting, Washington DC [2010/11/03].
- 54) Yamamoto H, Kamegaya E, Ikeda K, et al. The dopaminergic modulation of mu-opioid receptor in the primary cultured brain stem cells. The Society for Neuroscience 2010, San Diego, USA [2010/11/16].
- 55) 池田和隆. オピオイド作用個人差の遺伝子メカニズム. 第16回 PharmaScience フォーラム, 札幌 [2010/05/14].

- 56) 池田和隆, 笠井慎也, 西澤大輔, 他. 喫煙及び肺がんに関連する遺伝子多型の網羅的探索とオピオイド系遺伝子の重点解析. 特定研究7「遺伝子多型と喫煙—肺がんを中心として—」財団法人喫煙科学研究財団第25回平成21年度助成研究発表会, 東京 [2010/07/28].
- 57) 池田和隆, 高松幸雄. ADHDの中樞神経病態解明に関する基盤研究. 精神・神経疾患研究開発費22-6 発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究. 平成22年度第1回班会議, 小平 [2010/06/26].
- 58) 笠井慎也, 西澤大輔, 池田和隆, 他. オピオイド感受性に及ぼすミューオピオイド受容体遺伝子配列の影響. 第31回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム, 名古屋 [2010/08/26].
- 59) 井手聡一郎, 南雅文, 池田和隆, 他. 痛み・情動におけるミューオピオイド受容体の役割. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/15].
- 60) 池田和隆, 西澤大輔, 福田謙一, 林田眞和. オピオイド感受性個人差と遺伝子多型. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/15].
- 61) 青木淳, 岩橋和彦, 池田和隆, 他. OPRM1 118A/G 遺伝子多型と Temperament and Character Inventory の関連研究. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/16].
- 62) 山本秀子, 亀ヶ谷悦子, 池田和隆, 他. メタンフェタミン処理による初代培養脳幹由来神経細胞ミューオピオイド受容体の発現低下. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/16].
- 63) 西澤大輔, 長島誠, 池田和隆, 他. GIRKチャネルサブユニットGIRK3の遺伝子多型と開腹術後鎮痛との関連. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/17].
- 64) 佐藤敦志, 高松幸雄, 池田和隆, 他. アリピプラゾールがドーパミントランスポーター欠損マウスの多動および協調運動障害に与える効果. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/17].
- 65) 高松幸雄, 佐藤敦志, 曾良一郎, 池田和隆. 幼若期DAT遺伝子欠損マウスの多動とメチルフェニデートによる多動亢進. 第40回日本神経精神薬理学会, 仙台 [2010/09/17].
- 66) 西澤大輔, 池田和隆. 遺伝子解析による術後疼痛、がん性疼痛マネジメントへの貢献. 第4回日本緩和医療薬学会年会, 鹿児島 [2010/09/25].
- 67) 池田和隆, 西澤大輔, 笠井慎也. 痛覚感受性個人差の遺伝的要因. 第4回日本緩和医療薬学会年会, 鹿児島 [2010/09/25].
- 68) 森山彩子, 西澤大輔, 池田和隆, 他. 痛みや鎮痛薬に対する感受性とベータ1アドレナリン受容体遺伝子(ADRB1)多型との関連解析. 第4回日本緩和医療薬学会年会, 鹿児島 [2010/09/25].
- 69) 栗原晃平, 青木淳, 池田和隆, 他. GSK-3beta-50T/CおよびDBI+529A/T遺伝子多型とアルコール依存症との関連. 第13回ニコチン・薬物依存研究フォーラム, 北九州 [2010/10/07].
- 70) 堀達, 小宮山徳太郎, 池田和隆, 鈴木勉. 渴望に関してイフェンプロジルが有効と考えられた2症例. 第13回ニコチン・薬物依存研究フォーラム, 北九州 [2010/10/07].
- 71) 原口彩子, 池田和隆, 大谷保和, 他. ASI(Addiction Severity Index: 嗜癮重症度指標)の臨床応用の検討: 家族・人間関係をめぐる考察を中心に. 第13回ニコチン・薬物依存研究フォーラム, 北九州 [2010/10/08].
- 72) 小林大輔, 西澤大輔, 池田和隆, 他. 口腔外科手術後の下歯槽神経知覚障害と関連する遺伝子多型の網羅的探索. 日本人類遺伝学会第55回大会, さいたま [2010/10/28].
- 73) 池田和隆, 高松幸雄, 佐藤敦志, 他. ADHDの中樞神経病態解明に関する基盤研究: ドーパミントランスポーター欠損マウスにおける脳内報酬系の異常. 精神・神経疾患研究開発費22指-6 発達障害の神経科学的基盤の解明と治療法開発に関する研究 平成22年度第2回班会議, 小平 [2010/11/20].
- 74) 佐藤敦志, 池田和隆, 高松幸雄, 他. 結節性硬化症モデルマウスの自閉症様行動. 平成22年度厚生労働省科学研究費「神経皮膚症候群に関する調査研究班」班会議, 東京 [2010/12/17].
- 75) 服部政治. 骨転移の疼痛管理とビスホスホネート. 第44回日本ペインクリニック学会. 京都, 2010.7
- 76) 服部政治. シンポジウム1「褥瘡対策—緩和ケアはキュアからケアそしてQOLの向上へ—. 第12回日本褥瘡学会学術集会. 千葉市, 2010.8
- 77) 服部政治, 佐野博美, 横田美幸. ペインクリニックの関わりによる一歩上を行くがん疼痛治療. 第48回日本癌治療学会. 京都, 2010.10
- 78) Sumitani M, Shibata M, Uematsu H, Mashimo T, Yamada Y. Development of comprehensive

- diagnostic criteria for complex regional pain syndrome in the Japanese population. IARS (International Anesthesia Research Society) Annual Meeting. Honolulu, 2010.3
- 79) Sumitani M, Shibata M, Uematsu H, Mashimo T, Yamada Y, Japanese CRPS Research Group. Development of comprehensive diagnostic criteria for complex regional pain syndrome in the Japanese population. IASP-Neuropathic pain special interest group. Athens, 2010.5
- 80) Sumitani M. New Insight in Spatial and Number Representations from Pathologic Pain Patients: Possible Implications for Hemispatial Neglect. BIT's 1st Annual World Congress of Neuro Talk. Singapore, 2010.6
- 81) Sumitani M, Miyauchi S, Yamada Y, et al. Complex regional pain syndrome distorts eye-hand coordination in the affected hand. 13th World Congress of Pain. Montreal, 2010.9
- 82) 住谷昌彦, 植松弘進, 山田芳嗣, 他. 錯視を用いた疼痛に対する注意の定量化 (第二報: 脊髄刺激療法の効果: case-series study). 第32回日本疼痛学会. 京都, 2010.7
- 83) 住谷昌彦. オピオイド鎮痛薬は、がんの痛みをどこまで緩和できるか? - 痛みの原因論からのアプローチ. 第44回日本ペインクリニック学会. 京都, 2010.7
- 84) 住谷昌彦, 関山裕詩, 山田芳嗣. 定電流式脊髄電気刺激療法の使用経験. 第44回日本ペインクリニック学会. 京都, 2010.7
- 85) 住谷昌彦, 山田芳嗣. Neuropathic pain in Japan: Are we now on the road to understanding neuropathic pain rightly?. 第44回日本ペインクリニック学会. 京都, 2010.7
- 86) 住谷昌彦. 神経障害性疼痛の一般診療 - 日本におけるこれからの治療 -. 第40回日本臨床神経生理学会・学術大会. 神戸, 2010.10
- 87) 住谷昌彦. 幻肢痛に対する鏡療法の有用性: 痛みの性質から検討する難治性疼痛の発症機序. 第30回日本臨床麻酔学会. 徳島, 2010.11
- 88) 住谷昌彦, 宮内哲, 山田芳嗣. 幻肢痛の脳内機序. 第37回日本マイクロサージャリー学会学術集会. 名古屋, 2010.11
- (2011)
- 01) K.Azuma, M.Sumitani, Y.Yamada, et al. A novel diagnostic examination of the lumbar adhesion arachnoiditis by MRI scanning in supine and prone positions. PAIN WEEK. Las Vegas, 2011.9
- 02) J.Hozumi, M.Sumitani, Y.Yamada, et al. Oral local anesthesia successfully ameliorated neuropathic pain in an upper limb, suggesting pain alleviation through neural plasticity within the central nervous system: a case report. PAIN WEEK. Las Vegas, 2011.9
- 03) K.Ikegami, M.Sumitani, Y.Yamada, et al. Donepezil could reverse pregabalin/gabapentin-induced somnolence in patients with neuropathic pain. PAIN WEEK. Las Vegas, 2011.9
- 04) H.Sekiyama, K.Hanaoka, M.Sumitani, Y.Yamada, et al. Concurrent quantification of itch sensation and pain in patients with postherpetic neuralgia by PainVision. PAIN WEEK. Las Vegas, 2011.9
- 05) T.Kogure, M.Sumitani, Y.Yamada, et al. Ischemic ulcer pain includes not only nociceptive pain but neuropathic pain components, based on a discriminant function analysis using McGill Pain Questionnaire. PAIN WEEK. Las Vegas, 2011.9
- 06) J. Hozumi, M. Sumitani, Y. Yamada, et al. Opioid switching from sublingual buprenorphine to transmucosal fentanyl in patients with chronic nonmalignant pain: a dose-conversion and titration study. Anesthesiology. Chicago, 2011.10
- 07) 穂積淳, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. 非がん性慢性疼痛におけるブプレノルフィンからフェンタニルへのオピオイドローテーションでの2剤併用法の検討. 第58回日本麻酔科学会. 神戸, 2011.5
- 08) 穂積淳, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. 腕神経叢引き抜き損傷後疼痛が口腔内局所麻酔で寛解した1例. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 09) 東賢志, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. MRIを用いた癒着性くも膜炎の診断方法の開発. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 10) 小暮孝道, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. アクチグラフを用いた慢性疼痛患者の睡眠構築に対するフェンタニル経皮吸収型製剤の影響: 1例報告. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 11) 池上潔, 住谷昌彦, 山田芳嗣, 他. 塩酸ドネペジルはプレガバリンとガバペンチン誘発性の眠気を改善する. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7

- 12) 鈴木彩、住谷昌彦、山田芳嗣、他. 非がん性疼痛患者におけるデュロテップRMTパッチのdose escalationに対する年齢の影響. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 13) 荒木裕子、住谷昌彦、山田芳嗣、他. 脊髄刺激療法IPGの埋め込み位置（前腹壁と殿部）の予測的比較研究. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 14) 朝元雅明、住谷昌彦、山田芳嗣、他. Pain Visionを用いたドライマウスにおける口腔乾燥感の定量評価の試み. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 15) 水枝谷一仁、住谷昌彦、山田芳嗣、他. 脊髄刺激療法8極リードにさらに8極リードを追加して脊髄障害性疼痛を良好に管理した1例. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 16) 小暮孝道、住谷昌彦、山田芳嗣、他. 抗精神病薬を併用して医療用麻薬大量投与から離脱した慢性疼痛患者の一例. 第14回アルコール・薬物依存関連学会合同学術集会 ニコチン・薬物依存研究フォーラム. 名古屋, 2011.10
- 17) 阿部博昭、住谷昌彦、山田芳嗣、他. 腫瘍脊椎骨全摘術後の神経障害性疼痛2症例の治療経験. 第31回日本臨床麻酔学会. 宜野湾市, 2011.11
- 18) 小川節郎. これからのわが国の痛みの治療を考える：日本疼痛学会の立場から. 第45回日本ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 19) 中江 文、眞下 節. 脊髄損傷モデル動物の疼痛研究への応用. 第33回日本疼痛学会、2011年7月23日、愛媛県県民文化会館（松山市）
- 20) 中江 文、眞下 節. 情動と痛み. 第33回日本疼痛学会、2011年7月23日、愛媛県県民文化会館（松山市）
- 21) 安達友紀、中江 文、柴田政彦、眞下 節. 催眠による認知的評価と痛みの変化に関する研究. 第33回日本疼痛学会、2011年7月23日、愛媛県県民文化会館（松山市）
- 22) 上野博司、深澤圭太、細川豊史、他. 非がん性疼痛に対する腹腔神経叢ブロックの有用性. 日本ペインクリニック学会第45回大会（松山）2011.7.
- 23) 原田秋穂、細川豊史、深澤圭太、他. WHO第2段階としてのトラマドールの役割. 日本ペインクリニック学会第45回大会（松山）2011.7.
- 24) 深澤まどか、深澤圭太、細川豊史、他. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛に対するエコーガイド下胸部傍脊椎神経ブロックの有用性. 日本ペインクリニック学会第45回大会（松山）2011.7
- 25) 大西佳子、細川豊史、深澤圭太、他. 神経障害性疼痛に対するプレガバリンの有効性と副作用. 日本ペインクリニック学会第45回大会(松山)2011.7
- 26) 高取真由美、大西佳子、細川豊史、他. プレガバリン投与症例における副作用の検討. 日本ペインクリニック学会第45回大会（松山）2011.7
- 27) 深澤圭太、細川豊史、上野博司、他. 線維筋痛症と診断された器質的疾患の2症例. 日本ペインクリニック学会第45回大会（松山）2011.7.
- 28) 田中萌生、細川豊史、深澤圭太、他. 緩和医療におけるドロペリドールの有効性. 第57回日本麻酔科学会関西地方会、(大阪)2011.9.3
- 29) 神林祐子、小西洋子、藤本早和子、細川豊史. オピオイドローテーションにおいて、高用量のフェンタニルパッチを必要とする患者の要因解析—緩和ケアチームの活動を通して生じたクリニカルクエスションから—、第5回日本緩和医療薬学会年会（幕張）、2011.9. 24S
- 30) 神林祐子、羽多野裕、畑 讓、福居顕二、細川豊史. がん患者における終末期せん妄の要因—大学病院での解析から. 第17回日本緩和医療学会学術大会（神戸）2012. 6.22
- 31) 藤本早和子、井沢知子、細川豊史. 第1回京都府がん診療連携協議会緩和ケア部会主催ELNEC-J開催の評価. 第17回日本緩和医療学会学術大会（神戸）2012. 6.22
- 32) 吉本祐子、細川豊史、深澤圭太、他. CRPSと誤診されていた有痛性脂肪症（Adiposis dolorosa）：Dercum's diseaseの1例. 第41回日本慢性疼痛学会（東京）2012.2.19
- 33) Ueda H. Lysophosphatidic acid as initiator of neuropathic pain-biosynthesis and demyelination. The 4th Asian Pain Symposium, 2011年5月、上海
- 34) Ma L and Ueda H. Microglia-mediated lysophosphatidic acid production initiates neuropathic pain. The 4th Asian Pain Symposium, 2011年5月、上海
- 35) 植田弘師. 慢性疼痛機構におけるフィードフォワード性LPA生合成増幅機構. 日本分子生物学会第11回春季シンポジウム、2011年5月、石川
- 36) Ueda H, Uchida H, Araki K. HDAC inhibitors recover the epigenetically silenced mu-opioid receptor expression in neuropathic pain model. INRC2011, 2011年6月、フロリダ
- 37) Mukae T, Nishiyori M, Araki K, Ueda H. Morphine

- ne resistance and its underlying mechanisms in an experimental mouse model of fibromyalgia. INRC2 011, 2011年6月、フロリダ
- 38) Ueda H, Nagai J, Ma L, Taira K. Feed-forward amplification of LPA3 receptor-mediated LPA production via microglia in the initiation of neuropathic pain. FASEB SUMMER RESEARCH CONFERENCE- Lysophospholipid Mediators in Health & Disease, 2011年8月、ルッカ
- 39) 植田弘師. 線維筋痛症動物モデルにおける薬物治療、日本線維筋痛症学会 第3回学術集会、2011年9月、横浜
- 40) Ma L, Nagai J, Taira K, Ueda H. Lysophosphatidic acid 3 (LPA3) receptor-mediated LPA production via microglial activation underlies the initial mechanisms of nerve injury-induced neuropathic pain. 第34回日本神経科学大会、2011年9月、横浜
- 41) Ueda H, Nagai J, Lin Ma, Yano R, Shinohara K, Shinagawa A, Taira K. LPA receptor-mediated amplification of LPA biosynthesis and demyelination underlie the initiation mechanisms for neuropathic pain. The 9th IASP Research Symposium, 2011年10月、上海
- 42) Ueda H. Recent advances in understanding of various chronic pain mechanisms through lysophosphatidic acid (LPA) receptor signaling. Bio-Rheumatology International Congress(BRIC)Tokyo, 2011年11月、千葉
- 43) Araki K, Nishiyori M, Ueda H. Intermittent cold stress-induced experimental fibromyalgia model in mice - pharmacology and neurobiology. Bio-Rheumatology International Congress(BRIC)Tokyo The 8th GARN Meeting、2011年11月、千葉
- 44) Nagai J, Nishiyori M, Ueda H. Pilocarpine suppresses hyperalgesia induced by intermittent cold stress (ICS) as an experimental fibromyalgia model in mice. Bio-Rheumatology International Congress(BRIC)Tokyo The 8th GARN Meeting、2011年11月、千葉
- 45) Uchida H, Nishiyori M, Ueda H. Resistance to morphine analgesia and its underlying mechanisms in an experimental mouse model of fibromyalgia. Bio-Rheumatology International Congress(BRIC)Tokyo The 8th GARN Meeting、2011年11月、千葉
- 46) 永井潤、植田弘師. 神経障害性疼痛におけるモルヒネ先制鎮痛-下行性抑制系を介するリゾホスファチジン酸合成の抑制、平成23年度岡崎生理研究会『痛み の病態生理と神経・分子機構』、2011年12月、岡崎
- 47) Nagai J and Ueda H. Mechanism for preemptive anti-neuropathic pain treatment - prevention of injury-induced LPA production by opioid-induced medullo-spinal descending suppression of intense pain. 日本薬理学会第85年会 2012年3月、京都
- 48) 迎 武紘、植田弘師. 線維筋痛症モデルマウスにおける塩酸ドネペジルの鎮痛効果および治療効果、日本薬理学会第85年会、2012年3月、京都
- 49) Araki K and Ueda H. Epigenetic therapy targeting histone deacetylase in chronic pain. 日本薬理学会第85年会 2012年3月、京都
- 50) Ma L and Ueda H. LPA-induced amplification of LPA biosynthesis through activation of LPA3 receptor and microglia - advanced findings with LPA measurement using MALDI-TOF-MS analysis. 日本薬理学会第85年会 2012年3月、京都
- 51) Yano R and Ueda H. Paclitaxel-induced lysophosphatidic acid-1 receptor signaling causes demyelination and neuropathic pain. 日本薬理学会第85年会 2012年3月、京都
- 52) 廣瀬宗孝. マウスメラノーマモデルにおけるがん性痛治療薬IPTRK3の開発. 第33回日本疼痛学会、愛媛、2011.7.
- 53) 廣瀬宗孝. TrkAを阻害するペプチド化合物及びその用途. 科学技術振興機構 新技術説明会、東京、2011.8.23
- 54) Yamamoto H, Kamegaya E, Ikeda K, et al. PCP-dependent differentially expressed genes in the wild-type mouse but not GluN2D knockout mouse. SfN 2011, Washington DC, USA [2011/11/16]
- 55) Kasahara Y, Shimada M, Ikeda K, et al. Additive suppressive effects of  $\delta$ -opioid agonist pretreatment and mu-opioid receptor knockout on responses to forced swim stress. SfN 2011, Washington DC, USA [2011/11/ ]
- 56) Nishizawa D, Fukuda K, Ikeda K, et al. Association analysis between GIRK2 gene polymorphisms and postoperative analgesic requirements after painful cosmetic surgery. 12th IGHG, Montreal, Canada [2011/10/14]
- 57) Ikeda K. GIRK channels as candidate targets for pharmacotherapy of drug and alcohol dependence.



- [招待講演] The 2nd Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (2011 AsCNP-2nd) , Seoul, Korea [2011/09/23]
- 58) Sato A, Kasai S, Ikeda K, et al. Mizuguchi M. Autism-like behaviors in mouse models of tuberous sclerosis complex and their recovery by rapamycin. The 2nd Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (2011 AsCNP-2nd) , Seoul, Korea [2011/09/23-24]
- 59) Takamatsu Y, Hagino Y, Ikeda K, et al. Methylphenidate enhances motivation improves learning and increases extracellular dopamine in the prefrontal cortex in mice lacking dopamine transporter. The 2nd Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (2011 AsCNP-2nd) , Seoul, Korea [2011/09/23-24]
- 60) Nishizawa D, Fukuda K, Ikeda K, et al. Association analysis between GIRK2 gene polymorphisms and opioid sensitivity. The 2nd Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (2011 AsCNP-2nd) , Seoul, Korea [2011/09/23-24]
- 61) Yamamoto H, Kamegaya E, Ikeda K, et al. Phencyclidine-induced motor impairment: role of the GluN2D subunit of the N-methyl-D-aspartate receptor. The 2nd Meeting of Asian College of Neuropsychopharmacology (2011 AsCNP-2nd) , Seoul, Korea [2011/09/23-24]
- 62) Ikeda K, Hagino Y, Kasai S. Molecular mechanisms underlying the effects of phencyclidine. The Third Annual International Drug Abuse Research Society/ International Society for Neurochemistry/ESN Satellite Meeting, Istanbul, Turkey [2011/08/23]
- 63) Ogai Y, Watanabe T, Ikeda K, et al. Assessment of Japanese stimulant control law offenders using the Addiction Severity Index-Japanese version: Comparison with patients in treatment settings. College on Problems of Drug Dependence 73rd Annual Meeting, Hollywood, USA, [2011/06/21]
- 64) Kasai S, Ikeda K. Mu-opioid receptor gene: recent findings and future intervention approach. 1<sup>st</sup> National Symposium of Biological Psychiatry and Psychopharmacology, Makassar, Indonesia [2011/04/08]
- 65) 佐藤敦志, 池田和隆, 高松幸雄, 他. 結節性硬化症モデルマウスの自閉症様行動に対するラパマイシンの治療効果. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業, 平成 23 年度厚生労働省科学研究費「神経皮膚症候群に関する調査研究班」 班会議, 東京 [2011/12/02]
- 66) 嶋田政史, 笠原好之, 池田和隆, 他. ストレス応答に対するミューおよびデルタオピオイド受容体の関与. 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/28]
- 67) 青木淳, 岩橋和彦, 池田和隆, 他. 双極性障害患者におけるリチウム製剤感受性と GSK3B 遺伝子多型との関連研究. 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/28]
- 68) 森屋由紀, 笠原好之, 池田和隆, 他. 5-HT1B 受容体 KO マウスにおけるメタンフェタミン誘発性行動感作. 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/27]
- 69) 村岡渡, 西澤大輔, 池田和隆, 他. 外科的顎矯正手術における UGT2B7 遺伝子多型とフェンタニル感受性の関連について. 神経化学 I, 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/28]
- 70) 池田和隆. 精神疾患における遺伝子多型解析. [招待講演] シンポジウム 11, 精神疾患とエビジェティクス, 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/28]
- 71) 山田清文, 曾良一郎, 池田和隆, 溝口広一. 災害支援医薬品活用システムの構築の必要性. [招待講演] 震災シンポジウム, 大災害時における心のケア活動と医薬品供給体制の改善に向けて, 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/27]
- 72) 岩田健, 山本秀子, 池田和隆, 他. 電気痙攣療法のモルヒネ耐性に与える影響. 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会 合同年会, 東京 [2011/10/27]
- 73) 山本秀子, 亀ヶ谷悦子, 池田和隆, 他. GluN2D サブユニットを経由する、フェンサイクリジンに依存して特異的に異なる発現変化した遺伝子群. 第 32 回内藤コンファレンス, 北杜 [2011/10/20]
- 74) 山口重樹, 北島敏光, 鈴木勉, 池田和隆, Donald R. Taylor. 本邦におけるオピオイドの乱用・依存の備えについて: 欧米の事情から学ぶこと. 平成 23 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 名古屋 [2011/10/14]
- 75) 沼尻真貴, 青木淳, 池田和隆, 他. GSK-3beta-5OT/C 遺伝子多型とニコチン依存症との関連. 平成 23 年度アルコール・薬物依存関連学会合同



- 学術総会, 名古屋 [2011/10/14]
- 76) 萩野洋子, 笠井慎也, 池田和隆, 他. フェンサイクリジンの作用における NMDA 受容体チャネル GluN2D サブユニットの役割. 平成23年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 名古屋 [2011/10/14]
- 77) 笠井慎也, 韓文華, 池田和隆, 他. 日本人の喫煙歴と関連する OPR1 遺伝子多型の解析. 平成23年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 名古屋 [2011/10/13]
- 78) 高松幸雄, 山本秀子, 萩野洋子, Athina Markou, 池田和隆. 覚醒剤依存治療薬としての GIRK チャネル阻害薬の可能性. 平成23年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 名古屋 [2011/10/13]
- 79) 池田和隆. 依存性物質の作用機序と快・不快情動のメカニズム. [招待講演] 平成23年度生理学研究所情動研究会, 感覚刺激・薬物による快・不快情動生成機構とその破綻, 岡崎 [2011/10/06]
- 80) 山本秀子, 亀ヶ谷悦子, 池田和隆, 他. N-methyl-D-aspartate 受容体 GluN2D サブユニットはフェンサイクリジンで誘導される行動、遺伝子発現及び FOS 陽性細胞の増加に必要とされる. 第54回日本神経化学学会, 加賀 [2011/09/26]
- 81) 池田和隆, 西澤大輔, 笠井慎也, 他. 疼痛と不快情動における個人差のメカニズム. [招待講演] シンポジウム S4-I-1, 感覚から不快情動を生成する神経経路, 第34回日本神経科学大会—こころの脳科学—, 横浜 [2011/09/17]
- 82) 曾良一郎, 池田和隆. 脳内報酬系の異常とその制御. [招待講演] シンポジウム S2-G-2, 個性の生涯発達を支える「能動知」の探求, 第34回日本神経科学大会—こころの脳科学—, 横浜 [2011/09/15]
- 83) 池田和隆, 笠井慎也#, 西澤大輔, 韓文華, 森山彩子. 喫煙及び肺がんに関連する遺伝子多型の網羅的探索とオピオイド系遺伝子の重点解析. 特定研究5「遺伝子多型と喫煙—肺がんを中心として—」財団法人喫煙科学研究財団. 第26回平成22年度助成研究発表会, 東京 [2011/07/22]
- 84) 池田和隆. 薬物欲求とその分子機構. [招待講演] 第38回日本トキシコロジー学会学術年会, パシフィコ横浜, 横浜 [2011/07/11]
- 85) 池田和隆. オピオイド鎮痛薬感受性個人差の遺伝子メカニズム. [招待講演] 第3回信州 Opioid 研究会, 長野県立こども病院, 松本 [2011/06/18]
- 86) 池田和隆. 脳内報酬系の分子メカニズム—GIRK チャネルを中心に—. 第10回記念 CBSM2011, 長野県軽井沢町 [2011/06/24]
- 87) 池田和隆, 西澤大輔, 高松幸雄, 小林大輔. 報酬系における GIRK チャネルの役割. [招待講演] 第33回日本生物学的精神医学会, 東京 [2011/05/22]
- 88) S.Hattori, et al. Intrathecal morphine in cancer pain management: common findings in clinical status and basic science. American Pain Society 2012, Hawaii, USA (abstract accepted)
- 89) S.Hattori et al. Spinal cord stimulation for intractable metastatic spinal tumor related pain. International Anesthesia Research Society 2012, Boston, USA (abstract accepted)
- 90) S.Hattori. International Association for the Study of Pain 2012, Milan, Italy (submitting)
- 91) 服部政治. がん研有明病院における麻酔科・ペインクリニック的緩和医療. 第31回日本臨床麻酔学会. 宜野湾市, 2011.11
- 92) 服部政治. Science and Arts of pain management with opioids. 第51回日本麻酔科学会 関東・甲信越大会. 千葉市, 2011.9
- 93) 服部政治. ペインクリニック的がん疼痛治療+新薬の使用法. 第58回日本麻酔科学会. 神戸市, 2011.5
- 94) 服部政治. がん性疼痛管理の最前線: がんによる神経障害性疼痛の治療. 第16回日本緩和医療学会. 札幌市, 2011.7
- 95) 服部政治. ペインクリニック的がん疼痛管理の実際. 第5回日本緩和医療薬学会. 千葉市, 2011.9
- 96) 服部政治. がん性疼痛管理における DDS: オピオイドの脊髄投与. 第9回日本臨床腫瘍学会. 横浜市, 2011.7
- 97) Sumitani M, Miyauchi S, Yamada Y, et al. Targeted Neuro Rehabilitation of Pain Descriptions in Neuropathic Pain: Possible Implications for Future Development of the Visuomotor Imagery Training Device. Musculoskeletal Disorders and Chronic Pain. Los Angeles, 2011.2
- 98) M. Yoshikawa, Y. Matsumoto, M. Sumitani, H. Ishiguro. Psychological support in medical and welfare fields. IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO). Thailand, 2011.12
- 99) 住谷昌彦, 関山裕詩, 山田芳嗣. マギル疼痛質問票の痛みの性質から考える CRPS の病態: 炎症性疼痛か神経障害性疼痛か?. 第40回日本慢性疼痛学会. 東京, 2011.2

- 100) 柴田政彦、住谷昌彦、眞下節. CRPSをめぐる最新の話題. 第40回日本慢性疼痛学会. 東京, 2011.2
- 101) 住谷昌彦. 神経障害性疼痛の一般診療ー日本におけるこれからの治療ー. 第58回日本麻酔科学会. 神戸, 2011.5
- 102) 住谷昌彦. 麻薬性鎮痛薬はがんの痛みをどこまで緩和できるか?ー痛みの原因論からのアプローチ. 第58回日本麻酔科学会. 神戸, 2011.5
- 103) 住谷昌彦、宮内哲、山田芳嗣、他. 臨床神経障害性疼痛患者の高次機能(注意と他者理解). 第33回日本疼痛学会. 松山, 2011.7
- 104) 住谷昌彦、山田芳嗣、神経障害性疼痛薬物治療指針委員会. 神経障害性疼痛に対する薬物治療ガイドライン. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 105) 住谷昌彦、眞下節、山田芳嗣、他. CRPS: その発症機序の考察. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 106) 住谷昌彦、山田芳嗣. 非がん性慢性疼痛に対する薬物療法の適正使用: オピオイド鎮痛薬を中心に. 第45回ペインクリニック学会. 松山, 2011.7
- 107) 住谷昌彦、山田芳嗣. ペインクリニックの立場から非がん疼痛含む神経障害性疼痛のメカニズムとマネジメント. 第16回緩和医療学会. 札幌, 2011.7
- 108) 住谷昌彦. がんの痛みの病態生理から提案する薬物療法. 第16回緩和医療学会. 札幌, 2011.7
- 109) 住谷昌彦、竹下克志、原慶宏、山田芳嗣. Pain D ETECTによる神経障害性疼痛の診断. 第26回日本整形外科学会基礎学術集会. 前橋, 2011.10
- 110) 住谷昌彦、東賢志、小暮孝道、関山裕詩、山田芳嗣. MRIを用いた癒着性くも膜炎の診断方法の開発. 第4回日本運動器疼痛学会. 豊中市, 2011.11
- 111) 住谷昌彦. 神経障害性疼痛と侵害受容性/炎症性疼痛の境界病態Mixed pain conditionとその治療. 第41回日本慢性疼痛学会. 東京, 2012.2
- Office, 1895016 [2010/07/14]
- 03) Ikeda K, Hayashida M, Nishizawa D, Sora I (2010) Method of evaluating drug-sensitivity by analyzing the GIRK channel genes. [成立] France Part of the European Patent Office, E1895016 [2010/07/14]
- 04) Ikeda K, Hayashida M, Nishizawa D, Sora I (2010) Method of evaluating drug-sensitivity by analyzing the GIRK channel genes. [成立] German Part of the European Patent Office, 602007007697.8-08. [2010/07/28]
- 05) Ikeda K, Hayashida M, Nishizawa D, Sora I (2010) Method of evaluating drug-sensitivity by analyzing the GIRK channel genes. [成立] Britain Part of the European Patent Office, EP(UK)No.1895016 [2010/09/06]
- 06) Ikeda K, Hayashida M, Nishizawa D, Sora I (2010) Method of evaluating drug-sensitivity by analyzing the GIRK channel genes. [成立] United States Patent and Trademark Office, 7,858,313 [2010/12/28]
- 07) 池田和隆, 西澤大輔, 福田謙一 (2010) アドレナリン受容体遺伝子解析による薬物感受性の評価方法 [出願] 特許庁, 特願 2010-198319 [2010/09/03]
- 08) 池田和隆, 井手聡一郎, 曾良一郎 (2010) ミューオピオイド受容体遺伝子解析による薬物感受性の評価方法 [成立] 特許庁, 特許登録第 4580924号 [2010/09/03]
- 09) 池田和隆, 韓文華, 西澤大輔, 福田謙一 (2010) 電位依存性カルシウムチャネル遺伝子解析による薬物感受性の評価方法 [出願] 特許庁, 特願 2010-270630 [2010/12/03]

#### (2011)

#### G. 知的所有権の取得状況

##### 1. 特許取得

##### (2010)

- 01) 名称: TrkAを阻害するペプチド化合物及びその用途  
出願者: 福井大学  
発明者: 廣瀬宗孝、田畑麻里、村田恵理
- 02) Ikeda K, Hayashida M, Nishizawa D, Sora I (2010) Method of evaluating drug-sensitivity by analyzing the GIRK channel genes. [成立] European Patent
- 01) 名称: TrkAを阻害するペプチド化合物及びその用途  
出願年度: 2011年  
出願者: 福井大学  
発明者: 廣瀬宗孝、田畑麻里、村田恵理  
日本出願: 出願番号 特願2011-066819
- 02) 池田和隆, 西澤大輔, 福田謙一. 各種鎮痛関連遺伝子解析による薬物感受性の評価方法 [出願] 特許庁, 特願 2011-288940 [2011/12/28]
- 03) 池田和隆, 笠井慎也, 林田眞和, 樋口進. POMC 遺伝子解析による薬物感受性の評価方法 [成立] European Patent Office, 109055 [2011/10/17]
- 04) 池田和隆, 西澤大輔, 福田謙一. サイクリック AMP 応答配列結合タンパク質遺伝子解析による薬物感受性および疾患脆弱性の評価方法 [出願]

特許庁, 特願 2011-217104 [2011/09/30]

05) 池田和隆, 西澤大輔, 福田謙一. アドレナリン受容体遺伝子解析による薬物感受性および疾患脆弱性の評価 [出願] 特許庁, 特願 2011-191861 [2011/09/02]

2. 実用新案登録

なし

3. その他

(資料)

- a) 試験実施計画書
- b) 統計解析報告書
- c) 付録—関連解析結果
- d) 質問回答書
- e) 翻訳

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
眞下 節	はじめに	眞下 節 柴田政彦	複合性局所疼痛症候群	真興交易医学出版部	東京	2009	11-12
細川豊史	CRPSの疫学	眞下 節 柴田政彦	複合性局所疼痛症候群	真興交易医学出版部	東京	2009	28-32
深澤圭太、 細川豊史	腰椎後枝内側枝高周波熱凝固法	大瀬戸清茂	透視下神経ブロック法	医学書院	東京	2009	123-26
上野博司、 細川豊史	仙骨部神経根ブロック	大瀬戸清茂	透視下神経ブロック法	医学書院	東京	2009	134-37
Nishizawa D, Kobayashi T, Ikeda K	Potassium channels.	Brian E. Cairns, ed	Peripheral receptor targets for analgesia: Novel approaches to pain treatment	John Wiley & Sons, Inc.	Hoboken	2009	93-110
服部政治	オキシコドン内服薬について	堀夏樹、 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケア	総合医学社		2009	56-57
服部政治	モルヒネ（内服・注射・坐薬）について	堀夏樹、 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケア	総合医学社		2009	50-51
服部政治	神経ブロック	林章敏、中村めぐみ、 高橋美賀子	がん性疼痛ケア完全ガイド	照林社	東京	2009	230-35
服部政治, Vivek Malhotra, 関根龍一、林章敏、 首藤真理子	がん疼痛治療における日米の違い		Pharma Medical Review 別冊	メディカルレビュー社	東京	2009	1-4
住谷昌彦、 山田芳嗣	4. CRPS病態と症候 A. 感覚と認知機能	眞下節、 柴田政彦	複合性局所疼痛症候群CRPS	真興交易	東京	2009	33-37
住谷昌彦、柴田政彦、 山田芳嗣、眞下節、 厚生労働省CRPS研究班	5. CRPSの診断(判定指標) B. 本邦の判定指標	眞下節、 柴田政彦	複合性局所疼痛症候群CRPS	真興交易	東京	2009	70-78
住谷昌彦、 山田芳嗣	10. 各科からみたCRPS A. 麻酔科	眞下節、 柴田政彦	複合性局所疼痛症候群CRPS	真興交易	東京	2009	217-21

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小川節郎	問診の進め方	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	20-22
小川節郎	痛みの評価法	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	23-29
小川節郎	痛みの診断	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	30-34
加藤 実、 小川節郎	末梢性神経外傷 (静脈穿刺などによる神経障害)	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	202-206
細川豊史	Q19「非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) について教えてください」	堀 夏樹、 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケアQ&A	総合医学社	東京	2010	40-41
細川康二、 細川豊史	術後疼痛	佐野 統	NSAIDsの選び方・使い方ハンドブック	羊土社	東京	2010	237-43
細川豊史	第1章 概論 1.定義と臨床的特徴、2.分類、3.疫学	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	2-12
細川豊史	第3章 治療 2.抗うつ薬、	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	57-63
細川豊史	5.脊髄刺激療法	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	99-103
Nishizawa D, Hayashida M, Nagashima M, Koga H, Ikeda K	Genetic polymorphisms and human sensitivity to opioid analgesics.	Arpad Szallasi, ed	Methods in Molecular Biology	The human press Inc	Totowa	2010	395-420
Ide S, Minami M, Sora I, Ikeda K.	Combination of cell culture assays and knockout mouse analyses for the study of opioid partial agonism.	Arpad Szallasi, ed	Methods in Molecular Biology	The human press Inc	Totowa	2010	363-74

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Koide T, Catanesi CI, Nishi A, Shiroishi T, Kasai S, Ikeda K, Takahashi A.	Advantage of using wild-derived mouse strains for a variety of pain-related studies: Genetic diversity and new genetic tools.	Sam D'Alonzo, Katherine L. Grassano, ed	Acute Pain	Nova Science Publishers	New York	2010	79-99
Kobayashi D, Nishizawa D, Kasai S, Hasegawa J, Ikeda K, et al.	Association between analgesic requirements after major abdominal surgery and polymorphisms of the opioid metabolism-related gene ABCB1.	Sam D'Alonzo, Katherine L. Grassano, ed	Acute Pain	Nova Science Publishers	New York	2010	101-110
池田和隆	心の分子メカニズムの探索: 気持ちよさの生まれ方.	NPO法人脳の世紀推進会議編	こころの働きと病・覚醒剤	株式会社クパプロ	東京	2010	7-44
曾良一郎, 石原佳奈, 笠原好之, 山本秀子, 池田和隆	中枢刺激薬の分子標的としてのモノアミントランスporter.	社団法人日本薬理学会編	実験薬理学 実践行動薬理学	株式会社金芳堂	京都	2010	263-71
林田眞和, 池田和隆	ミューオピオイド受容体遺伝子とオピオイド感受性—癌性疼痛オピオイド治療の将来へ向けて.	花岡一雄編	癌性疼痛	克誠堂出版	東京	2010	90-93
池田和隆	人によって違う痛みと鎮痛.	小川節郎, 鈴木勉, 池田和隆, 下山直人, 松島英介, 笠井慎也, eds	緩和医療: 痛みの理解から心のケアまで	東京大学出版会	東京	2010	83-119
池田和隆	痛みと鎮痛における個人差の遺伝子メカニズム.	福土審編	別冊・医学のあゆみ 原始感覚と情動—生体防御系としての情動機構とその破綻	医歯薬出版株式会社	東京	2010	38-42
服部政治	がん性疼痛管理: タイトレーションとは	小山富美子, 服部政治, 他	今日からできる疼痛ケア	南江堂	東京	2010	155-58

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
服部政治	肝障害・腎障害、胸・腹水がある患者のオピオイドの使用法	小山富美子、服部政治、他	今日からできる疼痛ケア	南江堂	東京	2010	196-98
服部政治	オピオイド以外の疼痛治療：脊髄鎮痛法～硬膜外腔、脊髄くも膜下腔～	小山富美子、服部政治、他	今日からできる疼痛ケア	南江堂	東京	2010	225-29
服部政治	神経ブロック療法：硬膜外鎮痛法、くも膜下鎮痛法	花岡一雄	For Professional Anesthetologists: がん性疼痛	克誠堂出版	東京	2010	227-44
服部政治	がん性疼痛の治療：神経ブロック	林章敏、中村めぐみ、高橋美賀子	がん性疼痛ケア完全ガイド	照林社	東京	2010	230-35
服部政治	モルヒネについて教えてください	堀夏樹、小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケアQ&A	総合医学社	東京	2010	50-52
服部政治	オキシコドン内服薬について教えてください	堀夏樹、小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケアQ&A	総合医学社	東京	2010	56-7
服部政治	今後導入予定の鎮痛薬	樋口比登実	難治性疼痛薬物療法	南山堂	東京	2010	203-9
服部政治	オピオイド	樋口比登実	難治性疼痛薬物療法	南山堂	東京	2010	138-44
服部政治	骨転移痛	樋口比登実	難治性疼痛薬物療法	南山堂	東京	2010	73-75
住谷昌彦、眞下節、山田芳嗣	神経障害性疼痛の発症機序	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	13-17
住谷昌彦、眞下節、山田芳嗣	薬物療法	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	44-48
住谷昌彦、齋藤洋一	外科的療法	小川節郎	神経障害性疼痛診療ガイドブック	南山堂	東京	2010	86-90



著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
住谷昌彦、 柴田政彦	心理療法 - 心理面への 配慮	小川節郎	神経障害 性疼痛診 療ガイド ブック	南山堂	東京	2010	110-4
住谷昌彦、 柴田政彦	CRPS	小川節郎	神経障害 性疼痛診 療ガイド ブック	南山堂	東京	2010	146-54
住谷昌彦、 山田芳嗣	痛みのマネジメント	編集：エル ゼビア・ジ ャパン社	痛みの分 類と神経 障害性疼 痛の定 義・診断・ 治療につ いて-	Excerpta Medica	東京	2010	1-28
住谷昌彦、 山田芳嗣	複合性局所疼痛症候群 の疫学と本邦における 判定指標	佐藤章弘	慢性疼痛 における 薬剤選定 と治療薬 開発	技術情報協 会	東京	2010	76-85
住谷昌彦	痛み治療の薬理学	監修：熊澤 孝朗	痛み学：臨 床のため のテキスト (翻訳本)	名古屋大学 出版会	名古屋	2010	357-77
眞下 節	神経障害性疼痛とはな にか	眞下 節	For Profe ssional Anesthesi ologists 神経障害 性疼痛 N europathi c Pain	克誠堂出版	東京	2011	3-7
眞下 節	CRPS 複合性局所疼痛 症候群について	大阪弁護士 研修センタ ー	弁護士研 修講座研 修速報 No.322	大阪弁護士 協同組合	大阪	2011	1-17
細川豊史	神経障害性疼痛（神経障 害痛）とその治療	鈴木則、 祖父江元、 荒木信夫、 宇川義一、 川原信隆	Annual Review 神経	中外医学社	東京	2011	100-8
Kanbatashi Y, Hosokawa T	Predictors of Chemo therapy-Induced Peripheral Neuropathy	Ghazala Hayat	Periphera l Neuro pathy-Ad vances in Diagnosit ec & Ther apeutic Approach es	In Tech	Croatia	2012	21-38

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
池田和隆	薬物療法	福居顯二編	脳とこころの プライマリア 8 依存	株式会社シ ナジー	東京	2011	464-75
住谷昌彦、 竹下克志	神経障害性疼痛	米延策雄、 菊地臣一、 柴田政彦	長引く・頑 固な・つら い痛みの 薬物療法 2011 運動器編	シービーア ール	東京	2011	38-54
住谷昌彦	慢性疼痛疾患	高橋邦泰、 芳賀信彦	改訂第3版 整形外科学 テキスト	南江堂	東京	2011	350-55
住谷昌彦、 山田芳嗣	運動器の痛み治療 A 薬物療法 3)新しい疼痛 治療薬	中村耕三、 山下敏彦	整形外科 臨床パサ ージュ、運 動器のペ インマネ ジメント	中山書店	東京	2011	193-202

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kitamura T, Ogawa M, Yamada Y	The Individual and Combined Effects of U50,488, and Flurbiprofen Axetil on Visceral Pain in Conscious Rats	Anesth Analg	108(6)	1964-6	2009
Kitamura T, Ogawa M, Kawa mura G, Sato K, Yamada Y	The Effects of Sevoflurane and Propofol on Glucose Metabolism Under Aerobic Conditions in Fed Rats	Anesth Analg	109(5)	1479-85	2009
北村享之、星本弘 之、 <u>山田芳嗣</u>	東京大学医学部附属病院における自動麻酔記録装置の導入と包括的手術医療情報ネットワークの構築	麻酔	58(10)	1316-22	2009
浅原美保、北村 享之、 <u>山田芳嗣</u>	食道気管支瘻合併進行食道癌患者に対する食道バイパス手術の全身麻酔管理経験	麻酔	58(9)	1175-8	2009
朝元雅明、北村享 之、大野長良、室 屋充明、森芳映、 佐藤可奈子、 <u>山田 芳嗣</u>	成人アイゼンメンゲル症候群患者に対する緊急開腹手術の麻酔経験	麻酔	58(8)	1021-4	2009
北村享之、今井 洋介、大野長良、 室屋充明、小川 真、 <u>山田芳嗣</u>	ケタミンとレミフェンタニルを用いた全身麻酔は回復術後痛を軽減するか	麻酔	58(6)	739-44	2009
河村岳、伊藤伸 子、花岡一雄、 <u>山田芳嗣</u>	重症卵巣過剰刺激症候群患者の緊急手術の麻酔経験	麻酔	58(3)	360-2	2009
北村享之、 河村岳、小川真、 <u>山田芳嗣</u>	全身麻酔薬が手術麻酔管理中の血糖値変動に与える影響--セボフルランとプロポフォールと比較	麻酔	58(1)	81-4	2009
<u>小川節郎</u>	慢性疼痛と交感神経活動	ペインクリニック	30	S50-56	2009
<u>小川節郎</u>	急性痛と慢性痛	日本医師会雑誌	138(2)	320-21	2009
<u>小川節郎</u>	Management of neuropathic pain in the pain clinic practice	日本疼痛学会誌	24(4)	179-89	2009
Miyamoto Y, Kinouchi K, Sa no M, Iguchi N, Ono R, Kitamura S, <u>Mashimo T</u>	Pulse oximetric thresholds for tonsilectomy and adenotomy in children: significance of 1-2% decline in oxyhemoglobin saturations.	Paediatr Anaesth	19	470-76	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Chang C, Uchiyama A, Ma L, <u>Mashimo T</u> , Fujino Y	A Comparison of the effects on respiratory carbon dioxide response, arterial blood pressure, and heart rate of dexmedetomidine, propofol, and midazolam in sevoflurane-anesthetized rabbits	Anesth Analg	109	84-9	2009
柴田政彦、住谷昌彦、 <u>眞下節</u>	神経障害性疼痛 CRPS	Clinical Neuroscience別冊	27(5)	528-9	2009
松村陽子、 <u>眞下節</u> 、他	セルジニング法で硬膜外脊髄刺激電極を入れ替えた症例	日本ペインクリニック学会誌	16(1)	27-29	2009
Y. Kanbayashi, K.Okamoto, T.Oguru, <u>T.Hosokawa</u> and T.Takagi	Statistical validation of the relationships of cancer pain relief with various factors using ordered logistic regression analysis	Clinical Journal of Pain	25(1)	65-72	2009
<u>細川豊史</u>	疼痛 (痛み) の概念	臨床神経科学	27(5)	488-89	2009
上野博司、 <u>細川豊史</u>	4.がん疼痛緩和のポイント、薬物による除痛の進め方	臨床腫瘍プラクティス	5(2)	122-28	2009
上野博司、原田秋穂、 <u>細川豊史</u>	自己免疫能を向上させるためにさまざまな手段を用いて疼痛コントロールを	Lisa	16(9)	894-99	2009
<u>細川豊史</u>	VII.幻肢痛, B.治療法, 5)幻肢痛、断端痛に対する神経ブロックの効果	ペインクリニック別冊秋号	30(10)	S579-82	2009
<u>細川豊史</u>	VI.帯状疱疹後神経痛, C.インターベンショナル治療, 4)帯状疱疹の痛みと帯状疱疹後神経痛に対する低反応レベルレーザー照射療法	ペインクリニック別冊秋号	30(10)	S511-19	2009
深澤圭太、 <u>細川豊史</u>	硬膜外脊髄刺激療法	麻酔	58(11)	1393-400	2009
柿原 健、 <u>細川豊史</u> 、原田秋穂	経皮的電気的神経刺激療法 (TENS)	ペインクリニック	30(12)	1649-56	2009
Ma L, Uchida H, Nagai J, Inoue M, Chun J, Aoki J and <u>Ueda H</u>	Lysophosphatidic acid-3 receptor-mediated feed-forward production of lysophosphatidic acid: an initiator of nerve injury-induced neuropathic pain	Mol Pain	5:64	9p	2009
植田弘師、松下洋輔	オピオイド耐性機構に關与するグルタミン酸-NMDA 受容体アンチオピオイド機構	麻酔	58(9)	1136-42	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
植田弘師, 関野有紀	神経障害性疼痛におけるリズリン脂質のフィードフォワード性産生制御機構と病態生理機構	生体の化学	60(5)	490-91	2009
植田弘師, 内田仁司	神経障害性疼痛を担うフィードフォワード増幅機構	ペインクリニック	30(11)	1539-44	2009
Kato M, Abe M, Kuroda Y, Hirose M, Nakano M, Handa T	Synthetic pentapeptides inhibiting autophosphorylation of insulin receptor in a non-ATP-competitive mechanism.	J Pept Sci	15	327-36	2009
Watanabe T, Ogai Y, Koga T, Senoo E, Nakamura K, Mori N, Ikeda K	Assessment of Japanese stimulant control law offenders using the Addiction Severity Index-Japanese version: comparison with patients in treatment settings.	Int J Environ Res Public Health	6	3056-69	2009
Koide T, Catanesi CI, Nishi A, Shiroishi T, Kasai S, Ikeda K, Takahashi A	Systematic mapping of pain-related QTL using consomic mouse strains: Advantage of using wild-derived strains.	Brain Res J	2(4)	231-50	2009
Fukuda K, Haya shida M, Ide S, Saita N, Kokita Y, Kasai S, Nishizawa D, Ogai Y, Hasegawa J, Nagashima M, Tagami M, Komatsu H, Sora I, Koga H, Kaneko Y, Ikeda K	Association between OPRM1 gene polymorphisms and fentanyl sensitivity in patients undergoing painful cosmetic surgery	Pain	147	194-201	2009
Nishizawa D, Nagashima M, Katoh R, Satoh Y, Tagami M, Kasai S, Ogai Y, Han W, Hasegawa J, Shimoyama N, Sora I, Hayashida M, Ikeda K	Association between KCNJ6 (GIRK2) gene polymorphisms and postoperative analgesic requirements after major abdominal surgery.	PLoS ONE	4	e7060	2009
Kobayashi T, Washiyama K, Ikeda K	Pregnenolone sulfate potentiates the inwardly rectifying K <sup>+</sup> channel Kir2.3.	PLoS ONE	4	e6311	2009
Haraguchi A, Ogai Y, Senoo E, Saito S, Suzuki Y, Yoshino A, Ikeda K, et al.	Verification of the addiction severity index Japanese version (ASI-J) as a treatment-customization, prediction, and comparison tool for alcohol-dependent individuals.	Int J Environ Res Public Health	6	2205-25	2009